

## 鎌ヶ谷市生涯学習審議会 平成30年度第3回会議 会議録

◎ 開催日時 平成31年2月20日(水) 10時～11時45分

◎ 会 場 鎌ヶ谷市役所 地下1階 団体研修室

◎ 出席委員 12名

篠田繁会長、谷口隆子副会長、赤松茂顕委員、有川かおり委員、石田友和委員、今村濃太委員、清松檜男委員、佐藤克己委員、竹内春美委員、細井和美委員、森本聡委員、御代川泰久委員

◎ 欠席委員 3名

伊藤眞由美委員、小林修一委員、篠原勝委員

※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数15名に対し、出席委員12名であり会議は成立した。

◎ 事務局 7名

青木生涯学習推進課長、大関生涯学習推進課主幹、三石文化・スポーツ課主幹、渡邊生涯学習推進課副主幹、平澤市民会館主査、田中主任主事、関主事

◎ 傍聴者 0名

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

会議録署名人については、細井委員、御代川委員に決定した。

4 報告事項

①平成30年度生涯学習関係事業報告及び平成31年度生涯学習関係事業計画について

～事務局から資料に基づき報告～

【意見及び質疑応答】

委 員： 11ページの文化財保管スペース整備事業の予算は、土地と建物の合計額なのか。

事務局： 既存の建物を含めて土地を購入するものである。発掘調査で出土した遺物等の文化財の保管スペースの整備と考えている。

委員： ちょっとわからなかったので再度聞くが、郷土資料館の隣接地を買い、建物を建てるのか。

事務局： 現在、軽量鉄骨の建物が建っており、その建物をそのまま利用する。

委員： 隣接とあるが少し離れているのか。

事務局： すぐ隣の空き店舗になっている所である。

委員： 承知した。

委員： 3ページの補導活動について、どのような方が行っているのか。

事務局： 補導活動は毎日行っており、月・水・金曜日は定時パトロールとして、市内の青少年補導員80人のうち3人程度が職員と青パト車（青色回転灯装備車）で市内をパトロールしている。また、職員による早朝パトロールでは、不審者が出た所を中心に7時から8時30分の間、通学路に立ち見守りをしている。その後11時30分まで市内をパトロールし、午後は下校時に青少年補導員と共にパトロールをしている。なお、7月から9月は日が長くなるため、19時から21時まで青少年補導員3名と職員1名で青パト車による夜間パトロールを行っている。パトロールについては、不審者が出没した所に止まりながら、市内をまわっている。

委員： 実際の補導はあるのか。

事務局： パトロールには不審者対策と非行防止の2つが目的としてあり、不審者はなかったが、非行については、路上でのスケボー遊びや集団でのたむろや喫煙などについて声掛けをしている。また、最近では市民から苦情として上がっている自転車の並行した走りや二人乗りについても声掛けを行っている。

委員： 補導歴は残るのか。

事務局： 補導歴は残らない。

会長： 部活動のため、帰りが23時過ぎになってしまい補導された定時制の生徒のお姉さんが警察官を目指しており、親御さんが心配されていた。補導の場合は社会生活での不利益はないのか。

事務局： この補導活動は、逮捕の捕ではなく、補い導くことを主とした声掛け補導である。

委員： インターネットや携帯を使ってのいじめなどが増加している中で、ネットパトロールは、必要な事業だと思っているが少し予算が減っている。むしろ増やしたほうが良いと思っていた。予算のつけ方が逆行しているように思える。

事務局： 今年度の予算は、パトロール用のパソコンを買い上げに伴い計上していたが、そのパソコンが壊れてしまった。新たに購入するかレンタルをするか比較検討し、レンタルすることになった結果、予算が減少した。

委員： インターネット目安箱は、どの位の相談件数があるのか。

事務局： 中学生と思われる女性から2件、問い合わせが3件である。内容として

は、家庭内や両親の問題であった。

事務局： 先ほどのパトロールの補足だが、船橋の旭町で事件があった際は、定時パトロールとは別に教育委員会で体制を組み、事件があった地域の方面を中心にパトロールを行った。また、通学してきた児童から先生に不審者情報が入ると、すぐにこちらも急行しており、抑止力効果もあるものと考えている。

野田市の事件を受け教育委員会として色々な対応を考えているところだが、生涯学習推進課として何ができるかを考え、インターネット目安箱については、今までA4版だったチラシを子ども達の目に届くところに、という思いで、拡大印刷したものを公民館に貼り出した。小さいことかもしれないが、できる範囲で今に生きることをどんどん行っていきたい。

## ②平成31年度社会教育関係団体に対する補助金交付について

～事務局から資料に基づき報告～

### 【意見及び質疑応答】

委員： 小中学校PTA連絡協議会の補助金の使い道を教えていただきたい。

事務局： 補助金は、全体の事業の中から補助金の対象となる経費の2分の1以内で割り当てられ、人に対するものでなく事業を対象としている。申し訳ないが、詳細については資料を持ち合わせていなく、今お答えすることができない。

委員： では、これは別途確認しておく。

## ③審議会等出席状況について

～担当委員から資料に基づき報告～

## 5 協議事項

- ・鎌ヶ谷市生涯学習市民アンケート調査の結果について

～事務局から資料に基づき報告～

### 【意見及び質疑応答】

委員： 面白く興味深い結果である。問13の「身に着けた知識や技術を活かすためにはどのようなことが必要か」あたりが肝になると考えるが、ご説明にあったように、コーディネート力が重要だと思う。そこで、具体的にどのような提案をお考えなのか、答えられる範囲でお願いしたい。

事務局： コーディネート力というのは、かなり綺麗事だと思っている。野田市の事件を受け、自分なら何ができたかを今も問うている。例えば、私の自宅の近所に元気のいい男の子が3人位いて、時折ものすごい声が聞こえてくるとしたら、その時誰かに連絡することが果たしてできるのか。つまり先ほどの「顔が見える関係」というのがコーディネート力になってくると思

うが、何かあったときにどうしたかと声をかけることは、実は難しい。普段から元気ですかと声をかけられるかがポイントになる。「地域」において、自分だけで完結しない関係というものを計画の中にエッセンスとして入れていくよう、各所属の職員と議論したい。この事業で「何のために」、「どういう風に地域に影響を与えるのか」、「誰と関われるのか」そう言ったことを確認しながら、見える計画は同じであったとしても、つながりを重視していくような計画を策定していきたいと考えている。

会 長： 生涯学習の定義や概念がわからないというご意見があり、そういった方々にとっては考えるきっかけとなったアンケートだったかと思う。

また、身につけた知識や技能を活かすことに関して、学生、勤め人、高齢者の要望が違っている。他にも活かすレベルに達していない、活かす場所がないなどの理由が挙がっていた。先ほどから話があるように、地域にコーディネーターがいて接点をつないであげると、もっと豊かな鎌ケ谷になる。具体的には、地域をつなぐためのイベントなどを増やしていかなければならないと思った。

委 員： 自由コメントの記載が多く、市民の生涯学習についての気持ちが理解できたと思う。特に私は、30代以下の方の意見を重点的に見た結果、若者の生涯学習のツールは図書館だと感じた。以前にも話したことがあり恐縮だが、図書館と郷土資料館の間の10～15坪ほどのスペースをもったいなく思っている。また、郷土資料館に足を運ぶ若者は少なく、それに加え、図書館はスペースが少ないため蔵書の設置に限界がきている。先ほどの事業計画の際に、文化財保管スペース整備事業について質問したが、この事業により郷土資料館にスペースができると理解した。できれば、あまり多くない郷土資料館の2階の展示物を隣の購入した建物に移し、その空いたスペースに若者や中間世代向けの蔵書を設置することで、図書館の増築ということにしたい。なぜかという、若い世代の方にこそ、縄文資料などの1階の展示を見ていただきたいため、両方の活用ができるのではないかと思う。前回お話しした際は、予算の関係で難しいということだったが、隣接地の購入ができるのであれば、もう少し予算を上手く利用していただきたい。また、できれば2階に漫画本も置いていただきたい。漫画と聞くと抵抗がある方もいるが、歴史、経済、古典などで優れた漫画もあり、設置している図書館も増えている。以上がアンケートを見ての提案である。

会 長： 若者の活字離れが言われているが、ちょっとお茶を飲みながら、という若い世代の意見が反映されて、スターバックスなどの業者と一緒にしている施設がある。できるものとできないものがあるが、なるべく使い勝手の良い公共施設を目指してほしい。また、まなびいプラザなどの学習室は、たくさんの方が一生懸命に勉強をされており、学習スペースが足りないのかな、という感じもする。

今日は、鎌ケ谷高校の校長先生がいらっしゃるが、「オータムコンサート」、「クリスマスコンサート」、「冬休みの宿題やっちゃおう」ということで書道を子ども達に教えていただき、学生と地域の子どものつながりという、新しい試みをされており、本当に必要なことだと感じている。ぜひ生徒さんにお礼を言っていただければと思う。義務教育期間においても、鎌ケ谷には100人の不登校児童がいると聞いている。核家族化や人間関係の希薄化など、外につながれない人への声掛けや居場所提供というのも社会教育を通じた公民館の役割の一つかと思う。

委員： 地域活動に関わった生徒さんはどのような様子か。

委員： 子どもたちはやりがいを感じて参加をしている。高校の教育活動は通常の勉強もあるが総合学習となる部活動やこういった活動など、普段学んだことをどう使えるのかという実践の場が必要である。そういった意味では自分たちが学んできたことが、地域に喜ばれ、もっと喜んでもらうために技術を向上させるような場であり、こちらもあり難く感じている。先ほどの書道については10人の生徒が参加した。生徒たちは、昔の自分を思い出し、自分がどういう風に接したら興味を持ってくれるのかを考えていた。また、高校生になると高度なこともやっているが、基本は同じなので、顧問が基本を正しく伝えるために教え方のレクチャーを事前に行い、原点にかえるというおさらい的な意味もできた機会であった。

今、部活動の件で色々と問題になっているが、学校としてももっと地域に出ていきたいという気持ちはあるが、そうするとほぼ休暇がなくなってしまう。本校の職員には、声をかけていただきありがとうございます、という気持ちとともに、その活動が子どもたちにとって教育的な価値が見いだせるかどうかを判断しなさい、と伝えている。地域の皆さんに喜んでいただけるのは嬉しいが、限界があるので、これからは特に連携のあり方も相談させていただきながら活動したいと考えている。

委員： 地域においてどう社会貢献活動ができるのか考え、活発な部活や充実した部活と、少しずつできるところから広げていければ良いと感じた。

会長： 中学生も敬老会やクリスマスには鎌ケ谷駅で演奏をするなど色々と活動をされているが、今言われたように、緻密に声掛けができるとまた変わってくるのかなと思う。

委員： アンケート調査では、「持っている知識などを活かそうと思わない理由」の回答は、自己満足が半数以上だがそれでも良い。全てを一緒にどうにかしようとするのは難しい。

委員： 学校との連携は先生がおっしゃったように、部活との整合性が出てくる。生徒と地域の子どもの交流ができていいよ、だけではなく負担なく協働作業ができれば良い。

会長： 総合的な学習の中で定着していけたら良い。

先ほどの野田市の件だが、柏児童相談所では新しく見守らなくてはならない事案が3万件増加したとのことで、職員数がわからないがとても大変だと思う。外国では加害者への更生プログラムを裁判所が命令するシステムがある。日本は加害者への教育指導がとても遅れており、家族では対応しきれないところに何らかの形で関わっていく、組織的な対応が必要であると思う。また、町内会の声掛けや社会福祉関係のつながりが重要である。

委員： 去年の6月に市民の森に行った際、2歳位のお子さんと両親がテントを張って泊まっていた。一般的に2歳位の子どもだと、走り回り、火を起こすと寄って行くが、その子はじっと座りお行儀が良すぎた。食事の時も家族はばらばらに座り、子どもも黙々と食べていて様子が変わった。子どもと目が合ったときに助けてと言われているような気がしたが、見た目に痣もなく、日曜日でどこに連絡してよいかわからず、そのままになっているのが気になっている。どこかに通報したほうがその子のために良かったのか。でも、もし違った場合はとても失礼である。事件にならなければよいと思っている。

委員： 今は生涯学習の話をする時間である。確かに野田市の事件は大きな問題で、まなびいプラザにはふれあい談話室もあり生涯学習の一部だが、議題は生涯学習市民アンケート調査の結果についてである。児童相談の話も重要だが、今のメインはアンケートのことなので、そちらを先にまとめていただきたい。

会長： 人とのつながりということで、拡大に解釈しているかもしれないが、今の件は、いちはやくと言って「189」にかけると近くの児童相談所につながる。

事務局： 先ほど「できるところから」というご意見をいただいた。生きた計画を策定していきたい。また、校長先生からもお話があったように、参加した子ども達と地域の双方にとって良いものでなければならない。アンケート調査では、地域、学校、家庭が連携することでルールや社会慣習を学べる効果が期待できるという結果が出ている。公民館が事業を作る時にどれだけ良いものを演出できるのか、双方にとって良いものを提供できるよう、肝に銘じて計画を策定していきたい。

委員： 調査報告書には、何が課題か、何が必要かと非常に多く書かれている。実態を見て分析するのは役所の方の仕事だと思うので、データを分析して色々と反映していただきたいと思う。非常に良いデータである。

会長： 良い調査報告書なので、市民の目に触れるような場所に置いていただきたい。

委員： 3年前に生涯学習推進課と協働で、この審議会で始めた体操教室について報告する。人とのつながりや人材育成、居場所づくりということで審議会として体操教室を始めた。60人くらいの会員数で、第1・3月曜日が

スポーツ推進員のボランティアが中心となり、第2・4月曜日はインストラクターが講師をしている。生涯学習推進課の協力で次年度も補助金を受けながら活動できるようになった。元気な高齢者が増えると、自ずと外に出るようになり子どもの見守りにつながったり、人がいると不審者への抑止力になるということで始めた事業である。インボディという筋力や基礎代謝を測定できる機械を使って、データの可視化をしている。現在、様々な提案をするほか、インストラクターに教わった体操を実施してくれる参加者が4人おり、人が育ってきていると感じている。アンケート調査の項目にもあった、自分で得た技術がどうやって活かされるか、というところとつながっていると思う。人づくりは本当に大変だが、本人たちが楽しく自分たちの技術を人に提供してもらおう環境作りが大切であり、そこを生涯学習推進課に一生懸命整えていただいた。いずれはその4人に会長などたくさんさんの経験をしてもらいたいと思っている。

委員：先ほど会長からもお話があったように、アンケートは市民の目につく所に置いてほしい。さらに意見があったらいただけるような場所も検討してほしい。

委員：市に連携担当がいると良い。先ほどのどこに相談してよいかわからないケースも含め、色々な市民の声があると思うが、違う窓口で市民がきても、連携を取ってくれるような窓口の充実を望む。生涯学習や市民活動の充実になるかと思う。

委員：コーディネーターは活躍できる人数が多いほうが良いが、育成は難しい。世代などが違うと更に難しい。先ほどおっしゃられたように、横の連携を上手く組むことで、市民活動が活発になると思う。少しでも多くのコーディネーターを作る環境作りが大切だと感じる。

委員：アンケート調査では、「今後どのような生涯学習活動がしたいか」という問いに「趣味・芸術的なこと」「健康・医療・スポーツに関すること」という結果が出ている。自分の分野ではない、違う分野を計画する際に、聞いてくれる人がいる場所があったら良い。事業をするには、人とお金と物がなくてはいけませんので、人づくりと場所づくりが必要だと思う。

委員：先ほどの市民の森の話だが、心配ごと相談や家庭児童相談などに相談できないか。

委員：知っていたら行動できるが、パッと浮かばないと思いついて行動できない。どこかに行って伝えたら、担当課に案内してくれるような所が欲しい。

委員：問題が解決するかは別として、誰かに話したい、話す相手がいないということかと思う。

委員：子ども、親、障がい者、高齢者で何か事業をしたいという話をもらうが、こちらでは何とも答えられない。そういうところをつないでもらえるよう

な窓口を、行政につくっていただきたい。

委員： アンケート調査の結果を見ると、改めて生涯学習の範囲の広さと深さを感じた。このアンケート調査は計画策定のための資料として実施しているわけで、報告書は、設問の結果からまた問題点が出ていてわかりやすくとても良いアンケート結果だと思った。年代によっても結果が違うので、この資料を基に良い計画を策定していただきたい。

委員： 戦後、アメリカが家族形態や学校教育を変えたことで、そのしわ寄せが出ており、今、生涯学習が必要とされている。そういう使命感で、役所は向き合い、みんなで知恵を出し合ってもらいたい。

委員： 生涯学習は自分の楽しみで行ってる方が多く、何十年も続けてきて指導者をしている方もいる。そういう方は良いとして、今、問題となっているのは弱者である。道場で教えていると、子どもの異常を感じることもあり、その後少し指導をするが、道場に来なくなることもある。そういう面においては、我々はそれ以上踏み込めない。専門的に対処するなら、専門家が必要である。

## 6 その他

## 7 閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成31年3月18日

氏名 細井 和美

氏名 御代川 泰久